

立命館 災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第7号】 2012年4月17日発行

【立命館・後方支援スタッフ派遣】

第6便・岩手県宮古市にて

イベントサポートと生活支援

災害復興支援室が企画・運行するボランティアバス企画「後方支援スタッフ派遣」2011年度最後の便となる第6便が、去る3/22(木)から3/27(火)の日程で岩手県宮古市を訪問。今回は学生12名、引率職員3名が活動を行いました。

第6便 活動レポート

前回に続き、第6便は3/23(金)に東北に入り、まず宮古市田老での津波被害を学ぶ説明会に参加し、被災された方のお話を聞く時間を設けました。

現地説明会で学生たちは、それまでメディアを通してのみ知っていた被災地のことについて、自分の目で見て直接お話を聴くことで、あの日ほんとうにあった現実として理解していきます。語り部の方々のお話を聴く学生スタッフたちは、長時間の移動の疲れも忘れ、真剣な表情で聞き入っていました。



津波堤防の上でお話を聴く様子

<雪の中の復興イベントのサポート>

3/24(土)は、前日夜からの雪のため、朝には20cm近くの積雪。メンバーはこの日芸能プロダクションと宮古市が共催する復興支援イベント「がんばろうニッポン愛は勝つ in 宮古」の補助スタッフとしての活動を行いました。

この日はまず会場となる河川敷公園の雪かきから活動が始まります。「雪かきしたことないの?!」と一緒に活動した宮古出身の方々に驚かれながら、懸命に雪かきに従事。除雪車も登場し1時間半程度の作業



で広い会場の雪かきが完了しました。雪かき終了後、会場設営を経て、スタッフは5つほどのグループに分かれ、駐車場の案内や会場内での誘導を担当。被災された方とお話をする機会があった学生からは「被災され、生活されている方の生の声を聞いて、被災者といわれる方々の考えも多様だということがわかった。」との感想も聞かれました。

イベントでは、歌手のモーニング娘。や堀内孝雄さんによるミニライブのほか、ゲームコーナー、花畑牧場による炊き出しが行われ、学生たちは各持ち場で懸命に役目を果たしました。イベント終了後には、芸能人の方々との記念撮影もありました。



有名タレントさんとの記念撮影の様子

<仮設住宅での生活支援活動>

3/25(日)は宮古市内5ヶ所の仮設住宅の集会所を訪問し、各仮設を担当する生活支援相談員さんとの傾聴活動と、津波に使用した写真を修復し整理する活動に参加させていただきました。

【参加した学生より】

この傾聴活動で最も心に残ったのは、小学生になって間もない子供たちが、とてもうれしそうにホワイトボードに津波の絵を描いていたことです。私はアルバイトで小さな子供と関わることが多いので、子供の扱いには慣れているつもりでしたが、この

時はどうすればいいのかわからず頭が真っ白になりました。子供は心に残った辛い出来事などを絵にしてストレスを発散すると言いますが、活動が終わったあともこのことばかりが頭の中を占めていて、あの時どうしたら良かったんだろう、あの子どもたちは津波をどう受け止めていたんだろう、と何度も考えましたが、答えは出ないままです。(経営学部Yさん)

仮設住宅で出会った人たちは、震災や津波を体験したのだろうか?と思うほど本当に明るくふるまっておられましたが、津波に町が流される様子を生で見た方とお話した際、その方の顔色がふっと変わった事が今も深く印象に残っています。被災された方の不安や恐怖に触れた経験を、少しでも多くの人に伝えていきたいと思っています。(薬学部・Mさん)

2012年度も実施します

後方支援スタッフ派遣

ガイダンス開催&今後の予定

4/11(水)18:00~19:00、BKCと衣笠キャンパスにて、2012年度ガイダンス&報告会を同時開催しました。トータル100名近くの学生が参加し、2011年度派遣に参加した学生の声に熱心に耳を傾けていました。2012年度は、7月上旬までに計4便の派遣を行う予定です。詳細は決まり次第、災害復興支援室HPに公開の上、順次エントリー受付を行います。第7便はエントリー公開後、1時間で定員に達しています。関心のある方は、最新の情報をHP、facebook、twitterもぜひチェックしてください。



後方支援スタッフ派遣の最新情報

[HP] <http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/>
[facebook] [facebook.com/fukkoR](https://www.facebook.com/fukkoR)
[twitter] @fukko_R

3/27 日韓フォーラム

『KOREA NEXT, JAPAN NEXT』開催

3/27(火)内閣官房知的財産戦略推進事務局が実施する「知的財産推進計画2011」のクールジャパン戦略の一環で、震災復興への謝意と日本の復興を発信するフォーラム『KOREA NEXT, JAPAN NEXT~新しい東アジア世界の創造における日本と韓国の若者の役割~』を韓国・延世大学新村キャンパスで開催しました。

このイベントでは、立命館大学とAPUから学生代表22名、および教職員を派遣し、日韓の学生間の親交および結束を高めることを目的に、アイス・ブレイキングセッションが行われたほか、「東日本大震災後の日韓関係とその発展のために」をテーマにシンポジウムが開催され、立命館大学特別招聘教授中三十二氏や延世大学社会科学学部政治外交学科教授キム・キジュン氏による基調講演が行われました。



シンポジウムの様子

フォーラム会場では日本のお弁当やお菓子を提供する日本食ブース展示ブース、ビデオなどを通じたクールジャパン、災害復興支援の紹介を行うコーナーが設けられ、立命館大学、APUの学生がホストとなり展示の説明を行いました。



◀学生ワークショップの様子

立命館大学とAPU、延世大学学生のワークショップも開催され、国際社会において日本や韓国、東アジアの潜在的なソフトパワーにはどのようなものが挙げられるか、そしてアジア地域の魅力を高めるためにどのような協力ができるのか等討論を行い、両国のソフトパワーの可能性について発表が行われ、これを機に両国の学生のコミュニケーションをさらに深めていくことの意義を伝えました。

シンポジウムには145名、日本紹介コーナーには288名、あわせて433名の来場があり、大盛況の事業となりました。



◀日本紹介コーナー会場全体風景



◀日本のお菓子の説明をする立命館の学生と試食する延世大学生

<私たちの提案>レポート

陸前高田市広田半島を題材にした防災教材を公開

生命科学部 長野正道教授

東日本大震災復興のための『私たちの提案-教職員の取り組み-』第1次採択プログラム:「被災地デジタルフェニックスプロジェクト」の取り組みとして、長野生命科学部教授により、陸前高田市広田半島を題材にした防災教材が作成されました。

このたび教材に使用したすべての写真の公開許可が資料提供者から得られたため、災害復興支援室HP上でも公開し、誰でもダウンロードいただけるようになりました。

教材では、陸前高田市出身の長野教授が震災前に撮影していた海岸や被災した中学校付近の写真と、震災後の同じ場所の写真を対比した、津波被害状況の視覚的なまとめや、津波が広田中学校を襲う場面を収録した映像(提供:岩手県警察本部)から津波の分析等が行われ、地理的・歴史的な情報を知る生きた教材となっています。

詳細は学園HPピックアップや支援室HPでもご紹介しています。ぜひご覧ください。



これからの主な取り組み

4月土曜講座 毎週土曜日14:00~16:00 衣笠キャンパス末川記念会館講義室

<4/14 第3010回>

「成長から適応への転換 - 日本経済が失った40年」立命館大学国際関係学部 高橋伸彰教授

<4/21 第3011回>

「歴史的視点から見た震災後の日本」国際日本文化研究センター 所長 猪木武徳氏

<4/28 第3012回>

「今後の地震防災と京都」立命館グローバル・イノベーション研究機構 土岐恵三教授

国際平和ミュージアム2階ミニ企画展示「わたしたちにできること」

三期にわたり、震災後の1年を振り返る学生企画の展示が開催されます。

<第1期> 4/20(金)~5/20(日)

「スリランカの贈り物~平和の祈りの木を咲かせよう~」主催団体:Happy Factory

<第2期> 5/26(土)~6/17(日)

「震災から一年、気仙沼から同世代へ」主催団体:公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

<第3期> 6/23(土)~7/15(日)

「被災者xボランティア?いいえ、宮城のおっちゃんおばちゃんどもx京都の学生」

主催団体:NPO 法人国際ボランティア学生協会 IVUSA

<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

編集後記

今年もずいぶん寒かったのにちゃんと春がやってきて、暖かくなりましたね。震災から一年。新年度を迎え、災害復興支援室も設置からもうすぐ1年を迎えようとしています。立命館での復興支援活動、その取り組みは拡がり、そしてこれからもますます広げるため頑張っていきたいと思っています。引き続き、みなさまの震災に関わる取り組みといった情報とともに、ご意見・ご感想をぜひお寄せください。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第7号】

発行人・編集 立命館災害復興支援室

075-813-8130 (総合企画課内)

メール 311fukko@st.ritsumeai.ac.jp

HP <http://www.ritsumeai.ac.jp/rs/20110311/>